

一般社団法人静岡県中部未来懇話会の理事・運営委員・研究委員全体会が1月29日、静岡市葵区のホテルアソシア静岡で開かれた。当懇話会研究部会がまとめた2021年度の年間調査研究テーマ案「With コロナと企業の新戦略」について研究部会長の日詰一幸・静岡大人文社会科学部学部長が説明し、21年度の研究テーマとして承認された。

## 静岡県中部未来懇話会 理事・運営委員・研究委員全体会

# 21年度研究テーマ案承認

## 「With コロナと企業の新戦略」

2020年に入り、新型コロナウイルス感染症が世界で急速に拡大。21年に入っても感染拡大が続き、日本でも1月8日に東京、神奈川、埼玉、千葉の4都県、14日に愛知、大阪など7



21年度調査研究テーマ案を承認した理事・運営委員・研究委員全体会。静岡市葵区のホテルアソシア静岡。

府県に緊急事態宣言が発出され、さらに静岡県などで変異種ウイルスが発見されるなど新型コロナウイルスの影響は計り知れない。一方で感染拡大は企業を中心に在宅勤務等が推奨され、多くの企業が時短やテレワーク等を導入し、オフィス中心の勤務形態の見直しにつながった。

日本の経済活動の情景を大きく変えた新型コロナウイルスの感染拡大。研究部会では21年度の調査研究テーマを検討する中で「With コロナと企業の新戦略」を立案。その後の運営委員会との合同会議での協議を経て最終案を全体会で説明した。

趣旨説明で日詰氏は春と秋の年2回のシンポジウムを提案し、第1回シンポ（春季・6月）は「サプライチェーンの再構築に向けて」、第2回シンポ（秋季・10月）は「デジタル化による人材活用」をテーマとした。

具体的には、春季は新型コロナウイルスに象徴されるよ

うな大きな社会変動の中にあっても柔軟に機能するサプライチェーンを構築するためにはどうすべきかを検討する。

秋季はコロナ禍の経験は企業に新しい働き方やシステムを導入する機会になっている。特にリモートワークの導入（在宅勤務、テレワーク等）はオフィスに行かなくても働けることを実証した。そこで企業におけるデジタル化の今後の可能性と人材活用戦略について検討する。

テーマ案の承認後、懇話会事務局が中部地域経営会議の20年度活動経過を報告し、その中で18年度にまとめた提言書「Society 5.0で輝く人材共創戦略」小さな協働と大きな連携で育む人づくり」を具体化するために取り組んでいる活動を説明した。理事会では3月8日の臨時社員総会や時局講演会の開催が承認された。全体会には理事・運営委員・研究委員合わせて26人（代理含む）が出席した。

（関連記事23ページ参照）